

## 序 文

熊本大学は、明治にさかのぼるいくつかの前身の学校を統合再編して設置された経緯からそのキャンパスは熊本市内外の8地区に点在している。そして、これらのキャンパスのすべてが埋蔵文化財包蔵地に指定されている。

一方、本学は、現地再開発を進めてきており、耐用年数を超え老朽化した建物の更新や新築に際して、埋蔵文化財の調査が不可欠である。

本学では、埋蔵文化財を発掘調査し、文化財を保存すると共に、調査の結果を研究に資することを目的とした埋蔵文化財調査室と埋蔵文化財調査委員会を設置し、年度ごとに鋭意調査研究を展開してきた。本年報は、平成15年度内に実施された調査研究の成果を取りまとめたものである。

本年度実施した発掘調査は、黒髪南地区で実施された熊本大学（黒髪）総合研究棟共同溝設置に伴うもの、本荘北地区で実施された基幹・環境整備に伴うもの、及び発生医学研究センター建設に先立ち実施された旧動物舎取壊に伴うもの、の3件が主なものであり、今後の考古学研究にも貴重な資料となりうる数々の成果が得られた。

調査研究の成果は本報告に詳述されているが、本荘北地区においては、古代の住居跡や遺構面が深い西側で削平を免れた古墳時代や弥生時代の溝を検出している。また、黒髪南地区においては、学内において初めて縄文時代の遺物が範囲や量においてまとまって出土している。すなわち一定の範囲に黒曜石の破片が散布しており、下位からは縄文時代早期の押型文を主とする各種の土器や石器、総数760点が出土するなど数々の貴重な調査結果が得られている。

本調査は熊本大学のキャンパスのすべてが埋蔵文化財包蔵地に指定されているが故に義務付けられたものではあるが、埋蔵文化財調査室及び同調査委員会は学術的な立場から真摯に調査研究を展開し、考古学上高く評価され得る成果を収めた。埋蔵文化財調査室長、甲元眞之文学部教授及び同調査委員会委員長、北野隆工学部教授をはじめ調査に当たられた教職員、大学院生、協力者各位のご努力に深く敬服し感謝すると共に、本調査結果が今後の考古学研究に十分活用されることを期待する。

2004年3月

熊本大学

学 長 崎 元 達 郎

---

## 例言

---

1. 本書は熊本大学構内において、2003年4月1日から2004年3月31日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査室の活動内容に関する年次報告書である。
2. 構内遺跡の調査は、昨年度に引き続き、年次と調査順を表す調査番号で表すこととし、出土遺物や記録類もこの番号で整理・管理している。
3. 遺跡略号は、地区ごとにローマ字3文字で以下のように表記した。黒髪町遺跡黒髪南地区 (KKS)、同北地区 (KKN)、本庄遺跡医学部構内 (HJM)、同病院構内 (HJH)、同医療技術短期大学部構内 (KHJ)、京町台遺跡教育学部附属小中学校構内 (KMS)、大江遺跡群薬学部構内 (HJP)。
4. 遺物への注記は、遺跡略号+調査番号+出土遺構(位置)の順で行った。
5. 本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査室にて保管している。
6. 本書で使用した遺構実測図は、小畑弘己・大坪志子をはじめとする調査参加者が、遺物実測は小畑・大坪、製図は小畑・大坪・坂元紀乃が行った。
7. なお、遺構実測には手書きによる記録とともに遺跡調査汎用システム(カタタ Ver. 3-アーケオテクノ社)を使用した。
8. 本書の執筆は、表1・2、付篇および抄録を坂元が、II-1章を大坪が、II-3章を小畑が、I章・II-2章・III章・英文サマリーを大坪が、ハンゲル文については小畑が行った。
9. 本書の編集は大坪が行った。